



図1 琉球列島・近畿地方位置図 ※Google Mapsより転載



1、古墳時代の副葬品（貝製品）とは？

前号では鉄製品からわかる飯隈遺跡群の実像に迫りましたが、本号では、副葬品のなかでも貝製品を中心に飯隈遺跡群に眠る人々の様子を探っていききたいと思います。

古墳時代の遺跡で発見される貝製品の中で、貝殻を人の腕に装着できるように加工した腕輪を貝釧（かいくしろ）と呼びます。この貝釧は九州だけでなく日本各地で発見されています。また遠く朝鮮半島にも分布しています。ただし、貝釧の素材となる大型巻貝はどこにでも生息しているわけではありません。

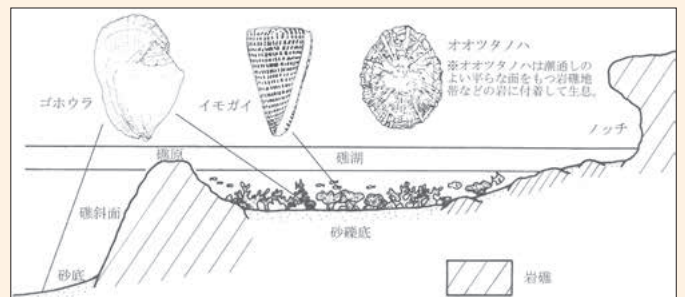


図2 貝の生息図

図1で示しているように琉球列島（種子島から宮古島）に生息している大型巻貝が貝釧に加工されています。また、貝釧の素材として多く用いられた貝は、図2のようにゴホウラ・イモガイ・オオツタノハになります。

以上のように貝釧の素材となる貝が生息している地域を『生産地』とよび、日本各地で発見されている貝釧の発見遺跡を『消費地』とよびます。この生産地と消費地の関係を考えることで当時の交易がどのようなになっていたかを知ることができます。近年の研究で、貝製品の流通状況がみえてきました。貝製品の流通は、古くは弥生時代から行われていました。ただ一部の権力を持った人物のみが装着していたようです。古墳時代の初めも弥生時代と同様に豪族のような人物のみが保持し、従えている家臣に分け与えている様子がお墓の規模などからわかってきました。時代が進むと一般庶民にも普及したようで貝製品の発見数が増えてきます。なお、貝製品の流通時期は奈良・平安時代まで続きます。これは、貝製品が長い時間装飾品として珍重されていたことを示しています。

2、飯隈遺跡群の貝製品は？

今回飯隈遺跡群で出土した貝製品は人骨の腕に装着している状態で発見されました。腕に装着されていたため貝釧であると断定しましたが、貝の種類は鹿児島大学の橋本准教授に鑑定していただいた結果、オオツタノハであることがわかりました。オオツタノハ製の装飾品が大隅半島で発見されたのは初めてで、これまで大隅半島で発見されている貝釧はイモガイ製でした。また、九州では宮崎の古墳群で多くの貝釧が発見されているため、宮崎の古墳の埋葬者が貝釧の流通に大きく関わっていたと考えられていました。ただし、大隅半島も貝釧の流通ルートに欠かせない位置ではあるため、何かしらの関わりがあるのではないかと指摘されていました。そんな中飯隈遺跡群から発見されたオオツタノハ製貝釧は、現在の研究に一石を投じるような成果であると思います。

次号⑥では飯隈遺跡群の総括に入りたいと思います。

大崎町教育委員会 大野泰輔

～夏の企画展「カメラを知ろう学ぼう」のお知らせ～

町立図書館1階にて絶賛公開中！
夏休み限定のカメラが展示されているぞ。